

## 令和4年度 射水市自殺対策推進協議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年 10 月 13 日(木) 午後3時～3時 55 分
- 2 開催場所 射水市役所 3階 302・303 会議室
- 3 出席者 14名 木田委員、片町委員、島多委員、櫻田委員、門田委員、板山委員、田村委員  
成瀬委員、稲垣委員、小路委員、中田委員、石黒委員、尾上委員、坂本委員  
欠席者 4名 (藤井委員、川田委員、向田委員、春日委員)

### 4 議題及び意見交換

(1) 射水市の自殺の現状と課題

(2) 射水市いのち支える自殺対策推進計画の進捗状況

【委員】 資料1の3 ページで市の女性 20 代の自殺者はいないのか？国では若者・女性の自殺対策も検討されている。

【事務局】 平成 27 年以降、女性の 20 歳代の自殺者数はゼロである。

【委員】 資料1の2 ページ(1)の自殺死亡率をみると国も県も減少傾向である。市は増えたり減ったりしているが、県内の他市町村で減少傾向にあるところは、自殺対策の取組がうまくいっているとも考えられ、参考にしたら良いと思う。

【事務局】 県内の状況を見ると、射水市と同様に令和 2 年に自殺死亡者数は増えているところが多い。射水市は 5 年間の積み上げで自殺死亡率の変化をみたが、人口規模によってデータの出し方が異なるため、他の市町村と比較したデータはない。市町村ごとに色々な方法で経年の変化をみている状況。

(3) 新型コロナウイルス感染症と自殺について

【委員】 他市の結果だが、自殺対策のサポーターを知らない人が多い。ゲートキーパー養成は大変重要であり、地域との関係づくりを行っている民生委員やボランティアを対象に、積極的に実施し、「ゲートキーパー」の存在を市民に周知してほしい。

【事務局】 今後の予定だが 11、12 月にボランティア、民生委員対象のゲートキーパー養成講座を実施する。市民の方への周知も含め、来年度以降も引き続き取り組んでいきたい。

【委員】 自殺をしてしまう方は、死ぬ直前に約 9 割はうつ状態になっているとも言われる。そういう方への対応や「うつ」への知識を広め、自分事として考えてもらうことで自殺対策につながる。また、民生委員をはじめ、病院や様々な支援者が、実際に悩んでいる人の情報を共有しながらチームで支援できると良い。「連携」は、表面上のことだけにならないよう、困った時にいつでも声をかけあえる顔の見える関係性、仕組みづくりが大切である。

【委員】 新聞記事でも見たが、うつへの認知行動療法について効果があることが分かってきたが、医療保険の適応となるのは医師が実施した場合のみである。しかし、認知行動療法は 1 人に対して約 30 分かかるため、医療機関で時間をとることが難しい。イギリスでは、うつという診断が出たら公費で認知行動療法を受けることができるため、本当に自殺対策を行うのであれば、このような実施方法も必要であると思う。

【会長】 効果等もしっかり見ながら、今後の対策に生かしていけると良い。